

名球会

リレーコラム



プロ3年目(1967年)の日南キャンプは初めて2軍スタートを命じられた。当時の天福球場はグラウンドが1面だけで、2軍が使えるのは早朝と1軍の練習が終わる午後3時から。その間、2軍の選手はやる事が無い。原っぱに集まってグラウンドが空くのを待っていた。待遇の違いや周りの目の冷たさが身に染みた。プロは結果が出なければ淘汰(とつた)される世界だと知った。

その年から、後に広島や西武などで監督を務める根本陸夫さんが1軍コーチに就任された。2軍暮らしが続ぎ、私生活も乱れていた時期で、合宿所で毎晩のように説教された。「プロ野球選手なんだから、おまえの売り物は何だ。野球をやめた後にどんな生活がしたいのか。ことし一年は1軍で使わない。その間によく考えろ」とにかく怖い人だったが、信頼に足る

人だと思った。

セールスポイントを自問自答し、一塁のポジションを争う先輩選手が3代になって飛距離が落ちていたので「ホームランを20本打てば、試合に出られるのでは...」。長打やフルスイングという方向性が見えてきた。何をしにグラウンドに行くかを考えるようになり、ひたすらバットを振った。

衣笠祥雄氏

4年目には、監督に昇格した根本さんが「衣笠にチャンスをやってくれ」と出番が減るベテラン選手を説得し、1軍で使い続けてくれた。127試合に出場して21本塁打。目標の数字をクリアできたことで、自分の目指す方向は間違っていないと大きな自信になった。

カープは球団創設から75年の初優勝まで26年かかったが、91年の最後の優勝からことしで25年。OBとしてもそろそろこの思いは強い。エース前田が大リーグに移籍



連続試合出場の世界記録を達成し「2131」を記した花輪を手に観客の祝福に応える衣笠祥雄氏—1987年6月、広島市民球場

したが、福井、野村らが先発の柱として自覚を持って頑張ってた。過去にも川口、黒田ら主力が抜けた年は不思議とチームの成績が上がっている。初優勝の年もルーツ監督が開幕早々に退団した。ピンチでチームが結束する何かがあるのだろう。

今の選手は優勝経験がなく、誰も優勝がどういうものか分からない。苦しいことがあるだろうが、

自分の力で突き破っていくしかない。乗り越えた時にやってくる爆発的な楽しさや喜びを後輩たちにも味わってほしい。

略歴

衣笠 祥雄氏(きぬがさ・さちお) 1965年

に京都・平安高(現龍谷大平安高)から広島入団。70年10月から87年10月に引退するまで2215試合連続出場のプロ野球記録を樹立。「鉄人」と呼ばれ、国民栄誉賞も受賞した。84年にセ・リーグ最優秀選手と打点王。通算2543安打は歴代5位、504本塁打は同7位。96年に野球殿堂入り。69歳。京都府出身。

自問自答し長打狙いに